

旭混声合唱団

第9回 演奏会

2014年7月20日(日) 午後2時開演(午後1時30分開場)

瀬戸市文化センター 文化ホール

主 催
旭混声合唱団

後 援

尾張旭市・愛知県合唱連盟

瀬戸市教育委員会・尾張旭市教育委員会・長久手市教育委員会



ごあいさつ

本日はお暑い中、旭混声合唱団第9回演奏会へお越しいただき誠にありがとうございます。また、日頃は当合唱団の活動にもお力添えを頂き、重ねて御礼を申し上げます。

当団も創立28年目となり、創立当時のメンバーも数多く在籍し高齢化も進んでおりますが、歌好きの団員達はますます元気に合唱活動を楽しんでおります。

ステージ前半では、定番となっております「ア カペラ宗教曲」と宮沢賢治の詩による『永訣の朝』を演奏いたします。『永訣の朝』では、初の試みですが、詩の朗読を行い、演奏効果も高まるのでは、と期待しております。

後半では、皆様もよくご存じの「愛唱歌集」を、当団の指揮者である神谷伸行先生の素晴らしい編曲でお届けいたします。

団員一同、心を込めて精一杯歌いますので、どうぞ最後までお楽しみください。

旭混声合唱団 団長

合瀬弘正

PROGRAM

I MISSA BREVIS

Giovanni Pierluigi da Palestrina

Kyrie

Gloria

Sanctus

Agnus Dei I°

Agnus Dei II°

II 混声合唱曲『永訣の朝』

作詩/宮沢 賢治 作曲/鈴木 憲夫

〈朗読/山田 由以子〉

～ 休憩(15分) ～

III 愛唱歌集 ～ 心にひびくうた ～

1. 見上げてごらん夜の星を

作詞/永 六輔
作曲/いずみ たく

2. いい日旅立ち

作詞/谷村 新司
作曲/谷村 新司

3. 少年時代

作詞/井上 陽水
作曲/井上 陽水・平井 夏美

4. 川の流れのように

作詞/秋元 康
作曲/見岳 章

5. 糸

作詞/中島 みゆき
作曲/中島 みゆき

6. 心に花を咲かせよう

作詞/山本 環子
作曲/上田 真樹

(以上6曲 編曲/神谷 伸行)

指揮 神谷 伸行

ピアノ 石川 ひとみ

♪ 本日の演奏曲について 神谷 伸行

I MISSA BREVIS

(Giovanni Pierluigi da Palestrina)

パレストリーナ(1525年?-1594年)は、イタリア・ルネサンス後期の音楽家である。ジョヴァンニが名、ピエール・ルイーズが姓。パレストリーナは生地である。カトリックの宗教曲を多く残し「教会音楽の父」ともいわれる。少なくとも100以上のミサ曲、200以上のモテットを初めとする数多くの教会音楽を作曲し、中でも「教皇マルチエリスのミサ曲」は代表作とされており、作品に見られる順次進行を主体とした簡素・平穏・緻密な合唱様式は「パレストリーナ様式」と称されている。「ミサ・ブレヴィス」のブレヴィスは短いという意味で、パレストリーナらしい流麗な旋律の動きがポリフォニックな流れの中に展開する美しさを感じることができる。今回は Credo、Benedictus を除いて演奏する。

II 永訣の朝

(宮沢賢治 詩／鈴木憲夫 曲)

「永訣の朝」の詩は国語の教科書にも取り上げられていて、一度は目にされた方も多いのではないだろうか。賢治の37年間の短い生涯で、最愛の妹トシとの永遠の別れは、人生最大の悲しむべき出来事であった。トシは日本女子大学家政学科卒業後、母校花巻高等女学校の教諭になったが、在職中、結核を発病して24歳で亡くなった。発病の報に接して、賢治は東京での生活を投げ打って帰郷、一年半の間付きっきりでトシの介護を続けた。トシが息を引き取った時、賢治は押し入れに頭を突っ込んで慟哭したという。トシを喪った大きな衝撃により賢治は、詩集『春と修羅』所収の「永訣の朝」「無声慟哭」「松の針」の三篇を結晶させる。「永訣の朝」について高村光太郎は「こんなまことのこもった美しい詩がまたとあるだろうか。その詩を書き写しているうちに、わたしは自然と清らかな涙に洗われる気がした」と絶賛している。

作曲の鈴木憲夫は、宮城県出身で、東北学院大学法律学科を卒業後、東京音楽大学作曲科研究科に進んだという経歴の作曲家。曲は長大ではないが、テンポや強弱など変化に富んでおり、賢治のこぼれや想いを余すところなく伝えている。ピアノも豊かな表現が随所に見られ、合唱を有機的に支え、また雄弁に語っている。今回は、舞台ナレーションを伴った演出で曲の理解を深めてもらい、賢治の世界により親しんでいただければと考えている。

III 愛唱曲集 ～心にひびくうた～

「誰もがよく知っている歌を肩のこらない雰囲気を楽しんでもらえたら、というコンセプトで構成してみました。…」

コンサートのプログラムでよく見かけるフレーズである。レコード大賞や歌謡曲番組が人気だった頃は「誰もがよく知っている歌」が確かにあった。今回「心にひびくうた」というサブタイトルであるが、音楽媒体が多様化し、人の好みも多種多様で、誰もが口ずさむことができる歌が少なくなった今、果たしてどれくらいの方の心にひびいてくれるのかと考えてしまう。「時代を超えた名曲」的なテレビ番組も最近よくあるが、編集のしやすさやコスト削減も相まってこうした番組は作りやすいのだろう。高度成長期に義務教育時代を過ごした者としては、当時の歌手(この表現も最近あまり使われない)の歌う映像が流れると思わず画面を見てしまうが、単なるノスタルジーでプロ

グラムを構成しては自分の好みの押しつけになってしまうので、アラカルトの愛唱歌とはいえ、過去の時代を切り取りながら現在、そして未来へ希望がつながっていくようなステージになるよう選曲を工夫した。

「心に花を咲かせよう」は、東日本大震災からの復興の歌となった《あすという日が》の大反響に対するアンサーソングとして誕生した曲である。私は、この希望に燃え、勇気がわいてくる曲を初めて聴いた時、是非演奏会の最後の曲に取り上げたいと思った。本来混声3部で書かれているが、広く親しんでもらえたらと思い、若干手を加えて混声4部用に補編曲をさせていただいたものである。

(ウェブ上の情報を一部参考にしました)

♪プロフィール

指揮 神谷 伸行

同志社大学文学部英文学科卒業。在学中はグリークラブにおいて指揮者として活躍、指揮法及び編曲法を故福永陽一郎氏に師事した。卒業後は声楽を平野忠彦氏に師事、ドイツリートからオペラ、コンサートアリア、日本歌曲まで幅広く薫陶を受ける。その後大学や一般の男声合唱団の指導を経て現在に至る。合唱曲の作曲、編曲も手がけ、特に男声版は名古屋、瀬戸、春日井、江南各市の男声合唱団などの演奏会でとり上げられ、好評を博した。

日本の合唱作品、ルネサンス宗教作品からロマン派、現代曲に至るまで幅広く取り組み、「ことば」を大切に、歌う側も聴く側も共感・連帯できるあたたかい音楽作りをめざしている。

ピアノ 石川 ひとみ

国立音楽大学卒業。卒業後、アンサンブルを中心に活動を開始。

活動当初より名フィル奏者はじめ国内外のソリストとの共演に恵まれ、近年では合唱団との共演も多い。共演者から学ぶ多くの経験を活かし、室内楽、器楽伴奏、合唱伴奏、新作演奏、ユニットなどでのアンサンブル活動を続け、地元演奏家のリサイタル、器楽、合唱のコンクールなど各種受賞につながる共演回数も多い。

ヴォイストレーナー 毛利 美奈子

名古屋音楽大学音楽学部声楽科卒業。ソプラノ歌手として多数のオペラ、オペレッタ、コンサートに出演。また、宗教曲のソリストとして出演し好評を得る。2004年イタリア留学。イタリア語およびオペラレパートリーの研鑽を積む。声楽を早川直子、小島琢磨、山本みよ子、小林史子各氏に師事。古楽歌唱法を宇田川貞夫氏に師事。

旭混声合唱団、ヴォイストレーニングサークル「ひばり」ヴォイストレーナー。

ヴォイストレーナー 毛利 和雄

中京大学法学部法律学科卒業。名古屋二期会研究生を経て、演奏活動をはじめ。名古屋二期会、(財)愛知県文化振興事業団、(財)ニッセイ文化振興財団等のオペラやコンサートに出演。近年、幅広いレパートリーを活かして精力的に活動の場を広げている。

コンサートソリストとしても、モーツァルト、バッハ、ベートーヴェンの宗教曲、シンフォニー等で活躍している。また、創作オペラへの出演も多く、作曲家からの信頼も厚い。

団 員 (パート別・50 音順)

《ソプラノ》

岩本 純子
植村 尚子
久野希見子
須田千賀子
谷口千賀子
角田美和子
波多野ユキ
波多野陽子
林 優美子
原 恵里子
藤田 邦江
藤田美左紀
森 ゆき子
若杉 佳代

《ア ル ト》

伊藤 雅代
梅村 和子
大栗 尉子
大沢 泊子
後藤せつ子
酒井 富子
須崎 麻弓
中畑チズ子
橋詰ひろみ
前川久美子
松本恵美子
水野 真弓
吉原 直子

《テノール》

梅村 治康
合瀬 弘正
酒井 敏行
林 丁三
水野 喬之

《ベ ー ス》

近藤鉦太郎
近藤 新二
近藤 進
酒井 敦智
佐久間一郎
佐竹 保
橋詰 喬
林 松男
松本 義明
渡辺 理

旭混声合唱団では団員を募集しています

- 練習会場 尾張旭市 旭丘公民館
(尾張旭市大久手町上切戸 70)
- 練習日 毎週土曜日または日曜日
- 練習時間 19 時～21 時
- 団 費 2,500 円/月
- 問合せ先 若杉：Tel 0561-53-6415

※随時見学可。お待ちしております！ ホームページもご覧ください。

<http://asahikon.sakura.ne.jp/>

